

保育園建設に対する近隣住民の態度形成に及ぼす要因について

—子どもと保護者に対する眼差しの厳しさの視点から—

Attitude Formation among the Neighborhood Residents toward the Plans for Child Care Center

窪田 奈央

跡見学園女子大学人

文科学研究科臨床心理学専攻

要 約

本研究は、子育てをしている人々に対する意見や態度に影響を及ぼす要因として、子どもに対するイメージ、子育てをする親に対する眼差しの厳しさや偏見、さらにそれらを緩和する要因などの視点から検討することを目的に行った。子どもイメージ尺度、子ども嫌悪尺度、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度、保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度を作成し、それぞれの尺度項目に加え、フェイスシート項目、回答者の近隣に建設が予定された際の保育園建設に対する賛否態度を30歳以上の人に回答してもらった (n=210)。分析の結果、若い世代よりも年代の高い人の方が子どもに対する嫌悪感を抱いており、子育てをしている親に対する眼差しも厳しいことが考えられる。保育園建設に対する賛否態度に関しては、子どもへの嫌悪感が強かったり、子育てをしている親に対して冷たい視線を向けたりする人の方が、保育園の建設にも否定的であるといえる。保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因に関しては、子どもに対する嫌悪感や子育てをしている親に対する冷たい視線が、どの対策が地域住民の賛同を得るために役に立つかに影響を与えられと考えられる。

【Key Word】 保育園建設、賛否態度の形成、冷たい視線、迷惑意識

I. はじめに

1. 本論文に関わる先行研究

1) 子どもに対するイメージ

田中 (2004) によると、子どもに対するイメージが今と昔で変化してきている。昔の子どもは、素直、親切で思いやりがある、友達付き合いが上手で連帯・忍耐・道徳といった公共性の礎となる要素を習得していた、というイメージがある。一方、今

の子どもは、忍耐力がない、我慢ができない、衝動的かつ目先の利害で行動する、自己中心的、人間関係を築くことが下手、社会道徳や規範といったモラルに欠ける、得体のわからない存在というイメージがある。

また、20～30歳代の若年世代ほど子どもらしさの指標を「無邪気」「元気」といった純粋性と考えていることに対し、世代が

あがるほど「真面目で素直」「大人や先生のいうことを聞く」等の従順性を子どもらしさの指標として重視する傾向が田中(2004)によって指摘された。

2) 子育てをしている親に対する眼差し

中谷・森田(2014)によると、育児の内容や行動を「迷惑である」と感じる側には、親への眼差しの厳しさがあると考えられる。そこには、育児の現状理解の難しさから、現在育児を行っていない人が公共の場にいる親子に厳しい眼差しを向けることに加え、養育者自身も、自らの育児の基準で他者の育児に厳しい眼差しを向けているといえる。

中谷・森田(2014)によると、インタビュー対象者のほとんどが、子育てに関する迷惑をかけた経験があると回答した。育児の迷惑となりやすい内容には、ベビーカー等で場所をとること、子どもが発する声や音、子ども特有の行動、不適切な行動であった。子ども特有の行動には、動き回る、突然行動する、興味のあるものに触れる、汚れる、が挙げられた。不適切な行動には、他人への危害、危険行為、他人に失礼な態度、が挙げられた。また、周囲からの親への眼差しの厳しさを意識するインタビュー対象者もみられ、周囲からの批判的な声に遭遇したり、対象者自身が他の親を批判的にみたりする意見もあった。

こうした社会をめぐる迷惑意識の前提には、「育児は育てている親自身の問題」と考える私物的わが子観の根強さ、周囲や上の世代からの親責任の期待の高さが含まれていると中谷・森田(2014)は指摘している。

また、船橋(1998)は1995年には子ども

のいない世帯が子どものいる世帯を上回っていることから、世帯の集まりである地域の中で、子育て中の世帯が少数派になることで、地域が子育ての場として機能しにくくなることを指摘している。

3) 現代的レイシズム

本研究では、在日コリアンに対する現代的レイシズム尺度を参考に、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ問う質問項目を作成した。

高・雨宮(2013)によると、McConahayによって名づけられた現代的レイシズムとは、黒人差別において「人種間の平等の必要性自体は認めている」が、「偏み・差別はすでに存在しておらず、現に存在する経済的格差は不平等によるものではなく黒人の努力の欠如によるものであり、黒人は政府による優遇を過剰に求め、不当な経済的恩恵を受けている」という考えであるが、平等の必要性自体は認めている。現代的レイシズムは差別的行動に結びついていることが示されているが、それを抱いている本人にとって偏見であると自覚しにくい。

4) 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因

公正の絆理論では、人が社会的判断を行う際には、分配的公正、手続き的公正、信頼感という公正要因が重視されると主張している(大淵, 2004; 田中, 1999)。公正の絆理論とは、組織や集団による決定が公正になされたこと知覚することが組織や集団に対する肯定的評価、態度を強める(大淵, 2004)というものである。

分配的公正とは、資源分配の公正さである(青木・西野・松井・鈴木, 2003)。青木、鈴木(2005)によれば、手続き的公正

とは、事業の進め方の公正さであり、その具体的内容には発言機会の多さ、意見反映可能性、回答の適切さ、参加者への尊重感、説明の一貫性等が挙げられる (Leventhal, 1980; 馬場, 2002)。社会資本整備が公正な事業プロセスに沿っていると認識された場合、そうでない場合に比べて市民の賛同度が向上する (青木・西野・松井・鈴木, 2003; 青木・星・佐藤, 2004a; Aoki, 2004)。また、社会資本整備は政府、自治体などの公共団体が主体であり、公共の利益のために私権を制限することもあるため、利害関係者の生活に大きな影響を与えうる。それ故に、権威者に対する信頼も社会資本整備に対する態度形成には重要な要素となる。

2. 本研究の目的

本研究においては、子育てをしている人々に対する意見や態度に影響を及ぼす要因として、子どもに対するイメージ、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさや偏見、さらにそれらを緩和する要因などの視点から検討することを目的とする。

II. 方法

1. 調査期間および実施方法

質問紙とWeb上のアンケートにて2016年7月から2016年10月に実施した。質問紙は首都圏にあるA女子大学の授業後に大学1, 2年生と大学院生に配布し、家族や知人の中で同意を得た30歳以上の人に記入してもらったものを、次回授業後に回収した。Web上でのアンケートは、インターネット上のアンケート作成サイトを利用して公開し、SNS上で30歳以上の人に回答を依頼した。アンケートへの協力は任意であり、協

力しない場合も不利益を被らないこと、アンケートの結果は統計的に処理し、個人が特定されることがないことを書面にて伝えた。記入は無記名であり、アンケートの返送をもって協力への同意とみなした。跡見学園女子大学倫理委員会の承認を受けた (承認番号16011)。

2. 調査内容

1) フェイスシート

性別、年齢、子ども・孫の有無、子ども・孫の年齢、住環境、住居の種類、住居の建て方について回答を求めた。住環境、住居の種類、住居の建て方については、厚生労働省の平成25年度国民生活基礎調査の世帯票を参考に作成した。住環境は、「住居地域」、「商業地域」、「工業地域」、「工業地域」、「農業地域」、「その他」から回答を求めた。住居の種類は、「持ち家」、「民間賃貸住宅」、「社宅・公務員住宅等の給与住宅」、「都市再生機構・公社等の公営賃貸住宅」、「その他」から回答を求めた。住居の建て方は、「一戸建て」「共同住宅 (マンション、アパート等)」から回答を求めた。

2) 子どもイメージ尺度

田中 (2004) の今の子どもと昔の子どものイメージ比較の項目を参考に作成した。今の子どもの特性として「当てはまる」と回答した割合が、小数第一位を四捨五入し、全体の80%以上となる項目6項目を利用した。回答は「非常に当てはまる」から「全く当てはまらない」の7件法で求めた。

3) 子ども嫌悪尺度

子どもイメージ尺度と同じ項目を使用した。子どもイメージ尺度の項目全てに「～なため、迷惑だ」という文章を付け加え、

「非常に当てはまる」から「全く当てはまらない」の7件法で回答を求めた。

4) 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度

中谷・森田(2014)がインタビュー調査の逐語録から分類した項目の中の「親へのまなざしの厳しさ」の項目と、高・雨宮(2013)の在日コリアンに対する現代的レイシズム尺度を参考に作成した。計13項目を作成し、「非常に当てはまる」から「全く当てはまらない」の7件法で回答を求めた。

5) 保育園建設に対する賛否態度

以下の文章を提示して、近隣に保育園建設が予定されたことを想定してもらい、「全く賛同できない」から「非常に賛同できる」の6件法で回答を求めた。

「あなたは、閑静な住宅街に一軒家を持っています。先日、あなたの住宅のすぐ近く、道を挟んで向かい側に保育園の建設が予定されていると知らされました。今後、説明会が開かれ、住民の意見を聞いて方針が決められよう

としています。」あなたの保育園建設に対する意見はどうか？

6) 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度

公正の絆理論を参考に作成した。計11項目作成し、近隣の保育園建設に関して、一般的に地域住民の賛同を得るためにどのくらい役に立つかを尋ねた。「全く役に立たない」から「非常に役に立つ」の6件法で回答を求めた。

Ⅲ. 結果

1. 実験参加者の概要

本調査の回答は30歳から86歳までの男女、210名から得られ、そのうち、男性45名、女性165名であった。

2. 各尺度の検討

1) 子どもイメージ尺度 (Table 1-1 参照)

子どもイメージ尺度6項目について主因子法、プロマックス回転を用いて因子分析を行った。その結果、2因子が抽出され、すべての項目に単一の因子が0.45以上の負

Table 1-1. 子どもイメージ尺度の因子分析

項目内容	因子分析	
	F1	F2
第1因子”迷惑行為” ($\alpha = .74$)		
2. 子どもは衝動的行動が多く目先の利益で行動する。	.88	-.06
3. 子どもは自己中心的である。	.74	.06
1. 子どもは声が大きい	.47	.07
第2因子”躰が悪い” ($\alpha = .74$)		
6. 子どもは基本的なマナーが出来ておらず、生活態度が悪い。	-.12	.92
4. 子どもは社会的道徳や規範意識に欠ける。	.18	.63
5. 子どもは何を考えているかわからない。	.10	.50
($\alpha = .78$)		
因子寄与率 (%)	47.75	18.90
累積寄与率 (%)	47.75	66.65

荷を示した。そこで、第1因子を「迷惑行為尺度」、第2因子を「躰が悪い尺度」と名付けた。 α 係数を用いて信頼性を検討したところ、 $\alpha = .74$ であった。ただし、迷惑行為尺度得点と躰が悪い尺度得点の合計得点を子どもイメージ尺度得点（点数が高い程ネガティブなイメージを持っている）として検討した。子どもイメージ尺度全体では、 $\alpha = .78$ であった。

2) 子ども嫌悪尺度

子ども嫌悪尺度6項目について主因子法、プロマックス回転を用いて因子分析を行った。その結果、1因子のみが抽出された。 α 係数を用いて信頼性を検討したところ、 $\alpha = .92$ であった。

3) 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度 (Table 1-2 参照)

子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度13項目について主因子法、プロマックス回転を用いて因子分析を行った。因子負荷量0.43を閾値として用いたところ、どの因子も負荷していない項目が2項目、

どの因子にも負荷している項目が1項目、1項目のみの因子が1因子あったため、その4項目を削除して再分析した。その結果、2因子が抽出され、すべての項目に単一の因子が0.43以上の負荷を示した。第1因子を「冷たい視線尺度」、第2因子を「親の責任重視尺度」と名付けた。 α 係数を用いて信頼性を検討したところ、“冷たい視線”尺度は $\alpha = .85$ 、“親責任重視”尺度は $\alpha = .63$ であった。

4) 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度 (Table 1-3 参照)

保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策を問う項目、11項目について主因子法、プロマックス回転を用いて因子分析を行った。その結果、3因子が抽出され、すべての項目に単一の因子が0.45以上の負荷を示した。第1因子を「園関係者の誠意ある対応尺度」、第2因子を「小規模化尺度」、第3因子を「地域貢献尺度」と名付けた。 α 係数を用いて信頼性

Table 1-2. 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度の因子分析

項目内容	因子分析①			因子分析②	
	F1	F2	F3	F1	F2
第1因子“冷たい視線” ($\alpha = .85$)					
7. 親たちは子育て環境の整備を不当に強く要求している。	.87	-.14	.00	.86	-.12
9. 親たちは男女平等の名のもとに過剰な要求をしている。	.75	-.09	.11	.75	-.05
8. 子どもを連れてくる親はマナーが悪い。	.72	.10	-.21	.72	-.01
11. 親たちはすでに不当に社会的恩恵を得ている。	.69	-.02	.13	.68	.06
13. 親たちは控えめに振る舞うべきだ。	.65	-.03	.24	.66	.00
14. 最近の親たちは養育力不足だ。	.51	.19	.08	.52	.22
17. 政府やマスコミは親たちに対して過度な配慮をしている。	.45	.14	-.19	.43	.11
19. 親たちに対する子育てをめぐる問題は、もはや大した問題ではない。	.41	.03	.35		
16. 子どもは人に預けず、自分で育てるべきだ。	.34	.07	.00		
18. 子どもを連れてくる時はもっと周りに配慮すべきだ。	.33	.31	-.32		
第2因子“親の責任重視” ($\alpha = .63$)					
12. 子どもの行動は全て親に責任がある。	-.08	.86	.25	-.02	.84
10. 親たちは常に、子どもから目を離すべきではない。	.03	.55	-.07	.03	.53
15. 親たちが子育てをする環境に不満を持つのも、もっともだ。(逆転項目)	.04	.05	.61		
因子寄与率 (%)	35.64	11.01	9.64	44.50	13.89
累積寄与率 (%)	35.64	46.65	56.29	44.50	58.39

Table 1-3. 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度の因子分析

項目内容	因子分析		
	F1	F2	F3
第1因子”園関係者の誠意ある対応” ($\alpha=.82$)			
3. 園長も説明会に同席する。	.66	-.03	.04
2. 園長が信頼できる。	.80	.07	-.09
1. 地域住民が納得するまで、自治体の担当者が説明会を開いてくれる。	.84	-.03	-.07
4. 防音壁の設置等、防音対策を取ってくれる。	.61	-.15	.22
5. 地域住民のための交通安全対策を取ってくれる。	.55	.11	-.05
6. 園児の保護者が地域住民に配慮する。	.47	.04	.09
第2因子”小規模化” ($\alpha=.69$)			
7. 園の規模を小さくする。	.01	.77	.14
8. 外遊びの時間を制限する。	.08	.75	-.06
第3因子”地域貢献” ($\alpha=.76$)			
11. 園関係者がバザー、ゴミ拾い等、地域への貢献を図る。	-.17	.12	.77
9. 地域住民が園の施設を利用できるようにする。	.15	-.02	.58
10. 地域の子どもが優先的に入園できるようにする。	.11	-.05	.81
因子寄与率 (%)	36.11	15.43	12.24
累積寄与率 (%)	36.11	51.54	63.78

Table 2. 各尺度の平均値と標準偏差

	平均値	SD
年齢	49.12	12.25
子どもイメージ	3.81	1.04
子ども嫌悪	2.40	1.01
眼差しの厳しさ	3.72	0.90
冷たい視線	3.35	0.99
親責任重視	5.02	1.22
保育園建設の賛否態度	4.16	1.06
対策全体	4.52	0.58
園関係者の誠意ある対応	4.96	0.68
小規模化	3.29	1.06
地域貢献	4.43	0.95

を検討したところ、“園関係者の誠意ある対応”尺度は $\alpha=.82$ ，“小規模化”尺度は $\alpha=.69$ ，“地域貢献”尺度は $\alpha=.76$ であった。

3. 基礎統計量 (Table 2 参照)

年齢とそれぞれの尺度得点の平均値・標準偏差はTable 2 に示す通りである。

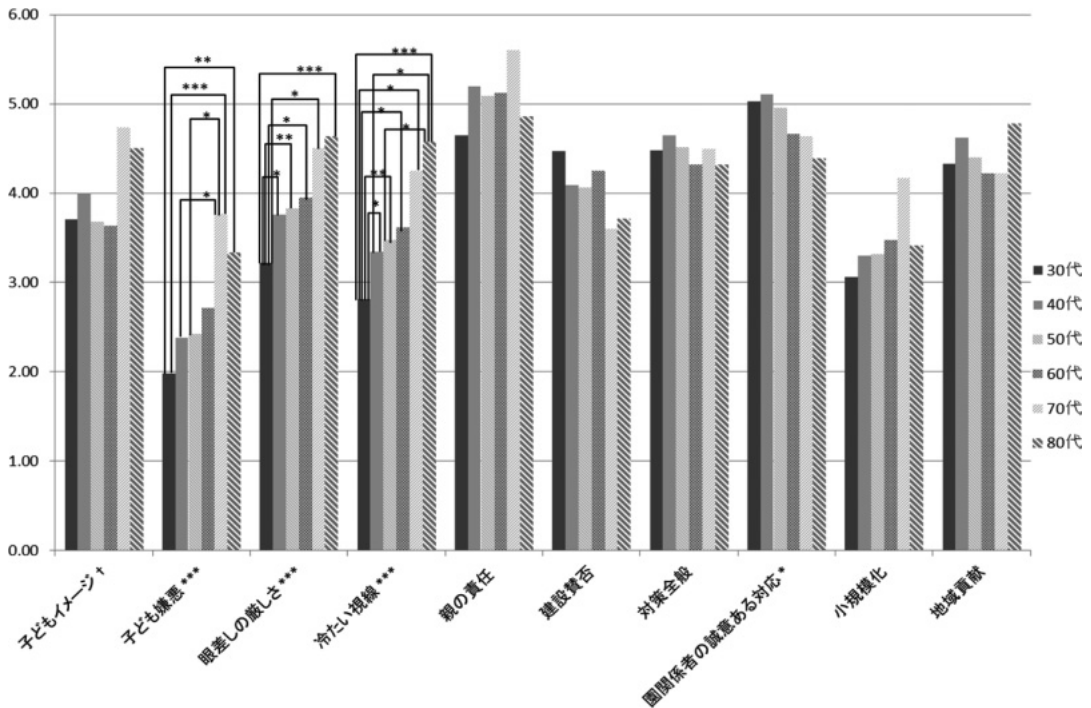
4. 各尺度得点の検討

1) 性別による検討

それぞれの下位尺度得点について、性別と年代別の2要因の分散分析を実施した。その結果、交互作用はみられなかった。性別による有意な主効果もみられなかった。そのため、以下の統計的な検討は性別を分けず全体として処理した。

2) 年代による検討 (Figure 1 参照)

(1) 子どもイメージ尺度・子ども嫌悪尺度



*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$
 Figure 1. 年代による1要因分散分析結果

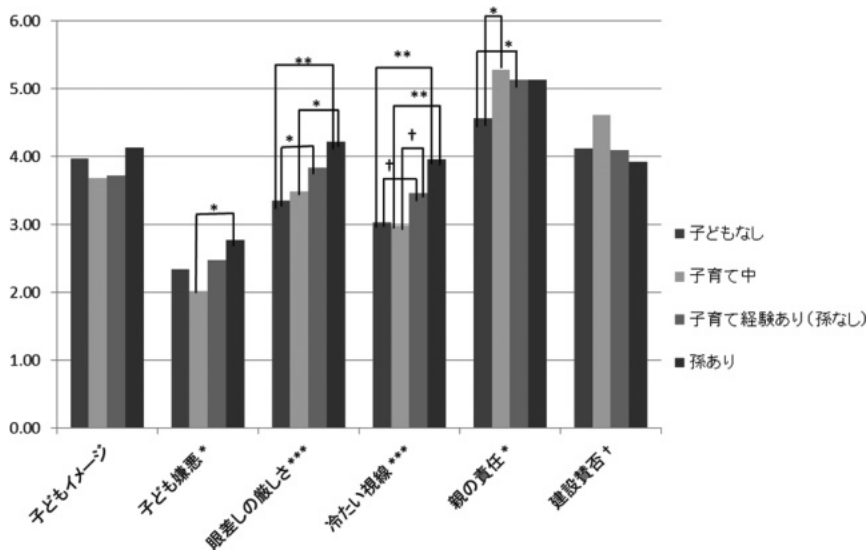
子どもイメージと子ども嫌悪尺度の得点について年代を要因とする1要因の分散分析を行った。その結果、子どもイメージの尺度得点において10%水準の有意な傾向が認められた ($F(5, 199) = 2.065$, $p < .10$)。そこでTukey法による多重比較を行ったが、有意差はみられなかった。また、子ども嫌悪の尺度得点において0.1%水準の有意差が認められた ($F(5, 201) = 5.603$, $p < .001$)。そこでTukey法による多重比較を行った結果、30代の平均値が70代 ($p < .001$)、80代 ($p < .01$) に比べ有意に低かった。また、40代・50代の平均値は70代に比べ5%水準で有意に低かった。

(2) 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度

子育てをしている親に対する眼差しの厳

しさ尺度と、その下位尺度である冷たい視線尺度、親責任重視尺度について年代を要因とする1要因の分散分析を行った。その結果、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度の得点において0.1%水準の有意差が認められた ($F(5, 197) = 6.139$, $p < .001$)。そこでTukey法による多重比較を行った結果、30代の平均値が40代 ($p < .05$)、50代 ($p < .01$)、60代 ($p < .05$)、70代 ($p < .05$)、80代 ($p < .001$) に比べて有意に低かった。

冷たい視線尺度の得点においても0.1%水準の有意差が認められた ($F(5, 197) = 7.059$, $p < .001$)。そこでTukey法による多重比較を行った結果、30代の平均値が40代 ($p < .05$)、50代 ($p < .01$)、60代 ($p < .05$)、70代 ($p < .05$)、80代 (p



** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$
 Figure 2. 子育て経験による1要因分散分析結果

<.001) に比べ有意に低かった。また、40代・50代の平均値は80代より5%水準で有意に低いことが明らかになった。

(3) 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度

保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因について、年代を要因とする1要因の分散分析を行った。その結果、園関係者の誠意ある対応において5%水準の有意差が認められた ($F(5, 199) = 2.474, p < .05$)。そこでTukey法による多重比較を行った結果、有意な差はみられなかった。

3) 子育て経験による検討 (Figure 2 参照)

子育て経験を要因として各尺度の得点を分析するため、子どもがいない人を子どもなし群、12歳以下の子どもがいる人を子育て中群、12歳以下ではない子どもはいるが、孫はいない人を子育て経験あり群、孫がいる人を孫あり群と分類した。

(1) 子どもイメージ尺度・子ども嫌悪尺

度

子どもイメージ尺度と子ども嫌悪尺度の得点について子育て経験を要因とする1要因の分散分析を行った。その結果、子ども嫌悪尺度得点において5%水準の有意差が認められた ($F(3, 202) = 2.897, p < .05$)。そこでTukey法による多重比較を行った結果、子育て中の人の子ども嫌悪尺度得点の平均値が、孫がいる人に比べ5%水準で有意に低いことが明らかとなった。

(2) 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度

子育てをしている親に対する眼差しの厳しさと、その下位尺度である冷たい視線尺度、親責任重視尺度について、子育て経験を要因とする1要因の分散分析を行った。その結果、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度の得点において0.1%水準の有意差が認められた ($F(3, 198) = 6.486, p < .001$)。そこでTukey法による多重比較を行った結果、子どもがいない人

Table 3. 各尺度得点と子育て経験の有無における相関係数と偏相関係数

	子どもイメージ	子ども嫌悪	眼差しの厳しさ	冷たい視線	親責任重視	子育て経験
子どもイメージ	—	.520**	.370**	.366**	.207**	-.015
子ども嫌悪	.518***	—	.469**	.503**	.158*	.137*
眼差しの厳しさ	.385***	.389***	—	.960**	.604**	.293*
冷たい視線	.382***	.422***	.953**	—	.356**	.284**
親責任重視	.190**	.096	.598***	.327***	—	.150*
子育て経験	-.035	-.096	.041	-.006	.143*	—

表中右上が相関係数，左下が偏相関係数

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

は，子育て経験のある人 ($p < .05$)，孫がいる人 ($p < .01$) に比べて有意に得点が低かった。また，子育て中の人は，孫がいる人 に比べ 5%水準で有意に得点が低かった。加えて，冷たい視線尺度得点において 0.1%水準の有意差が認められた ($F(3, 198) = 6.960$, $p < .001$)。そこで Tukey 法による多重比較を行った結果，子どもがいない人と子育て中の人は，子育て経験がある人 ($p < .10$)，孫がいる人 ($p < .01$) に比べると有意に得点が低いことが明らかとなった。親の責任重視尺度の得点においても 5%水準の有意差が認められた ($F(3, 203) = 3.049$, $p < .05$)。そこで Tukey 法による多重比較を行った結果，子どもがいない人は子育て中の人，子育て経験ありの人に比べ 5%水準で有意に得点が低かった。

(3) 保育園建設の賛否態度

保育園建設の賛否態度について，子育て経験を要因とする 1 要因の分散分析を行った。その結果，10%水準の有意傾向が認められた ($F(3, 199) = 2.565$, $p < .10$)。そこで Tukey 法による多重比較を行った結果，子育て中の人の保育園建設の賛否態度の平均値が，子育て経験がある人と孫がいる人に比べ 10%水準で有意に高い傾向にあることが明らかとなった。

4) 各尺度得点と子育て経験の有無における相関係数と偏相関係数 (Table 3 参照)

子どもイメージ尺度，子ども嫌悪尺度，子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度，冷たい視線尺度，親責任重視尺度得点間の相関係数と，各尺度得点と子育て経験の有無における相関係数を算出した。さらに，年代の影響をコントロールした偏相関係数も算出した。その結果，相関係数においては，すべての尺度得点間で有意な相関がみられ，子どもイメージ尺度得点を除く，子育て経験とすべての尺度得点間で有意な相関がみられた。偏相関係数においては，子ども嫌悪尺度得点と親責任重視尺度得点を除き，すべての尺度間で相関がみられた。子育て経験と各尺度得点においては，親責任重視尺度得点においてのみ有意な相関がみられた。

5) 各尺度得点の高低による保育園建設の賛否態度と保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度得点の比較 (Table 4 参照)

子どもイメージ尺度，子ども嫌悪尺度，子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度，冷たい視線尺度，親責任重視尺度それぞれについて平均値を基準として得点の高い群，低い群の 2 群に分けた。子どもイメージ尺度は，子どもイメージ尺度得点

Table 4. 各尺度得点の高低による建設賛否と保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度得点の平均値の比較

	建設賛否			対策全体			園関係者の誠意ある対応			小規模化			地域貢献		
	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値
子どもイメージ悪群 良群	3.87	1.09	3.668***	4.56	0.60	0.997	4.99	0.65	0.158	3.58	1.03	3.825***	4.37	0.98	0.471
	4.48	0.90		4.47	0.64		4.97	0.76		2.94	1.04		4.44	1.05	
子ども嫌悪 高群 低群	3.75	1.07	4.852***	4.44	0.60	1.818 ¹	4.84	0.70	2.511*	3.61	1.05	3.800***	4.18	0.95	3.291**
	4.45	0.95		4.59	0.56		5.08	0.63		3.06	1.02		4.61	0.92	
眼差しの厳しさ 高群 低群	4.00	1.15	2.988**	4.56	0.59	0.233	4.96	0.67	0.823	3.54	1.06	3.501***	4.45	0.91	0.715
	4.45	0.83		4.54	0.59		5.04	0.68		2.99	1.02		4.54	0.89	
冷たい視線 高群 低群	3.99	1.14	2.897**	4.53	0.59	0.199	4.92	0.68	1.420	3.48	1.06	2.615**	4.46	0.88	0.238
	4.4	0.83		4.55	0.57		5.05	0.65		3.09	1.04		4.49	0.95	
親責任重視 高群 低群	4.14	1.22	0.145	4.64	0.64	2.555*	5.13	0.68	2.902*	3.42	1.17	1.565	4.47	1.12	0.531
	4.16	0.90		4.43	0.51		4.86	0.64		3.18	0.96		4.40	0.79	

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ¹ $p < .10$

の平均値が3.3以下を子どもイメージ良群、3.7以上を子どもイメージ悪群とした。子ども嫌悪尺度は、子ども嫌悪尺度得点の平均値が2.4以下を低群、2.5以上を高群とした。子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度は、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ得点の平均値が3.6以下を低群、3.7以上を高群とした。冷たい視線尺度は、冷たい視線得点の平均値が3.3以下を低群、3.4以上を高群とした。親責任重視尺度は、親責任重視得点の平均値が5.0以下を低群、5.01以上を高群とした。

(1) 子どもイメージ尺度・子ども嫌悪尺度と保育園建設の賛否態度

子どもイメージ、子ども嫌悪得点の高群・低群で保育園建設の賛否態度に有意な差があるかを検討するため、対応の無いt検定を行った。その結果、0.1%水準で子どもに対するイメージが悪い群は子どもイメージの良い群よりも保育園建設の賛否態度の得点が低いことが明らかになった ($t(162) = 3.668$, $p < .001$)。また、0.1%水準で子ども嫌悪高群は子ども嫌悪低群より

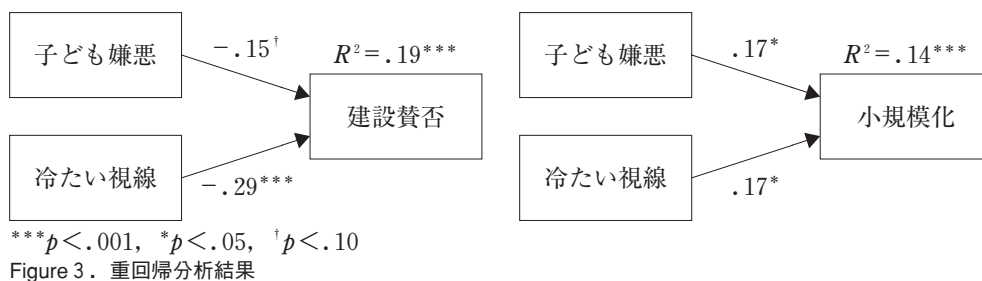
も保育園建設の賛否態度の得点が低いことが明らかになった ($t(199) = 4.852$, $p < .001$)。

(2) 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度と保育園建設の賛否態度

子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度と、その下位尺度である冷たい視線尺度、親責任重視尺度得点の高群・低群で保育園建設の賛否態度に有意な差があるかを検討するため、対応の無いt検定を行った。その結果、1%水準で子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ得点高群は低群よりも保育園建設の賛否態度の得点が低いことが明らかになった ($t(178) = 2.988$, $p < .01$)。また、1%水準で冷たい視線得点高群は低群よりも保育園建設の賛否態度の得点が低いことが明らかになった ($t(195) = 2.897$, $p < .01$)。

(3) 子どもイメージ尺度・子ども嫌悪尺度と保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度

子どもイメージ良群・悪群、子ども嫌悪得点の高群・低群で保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度



に有意な差があるかを検討するため、対応のないt検定を行った。その結果、1%水準で子どもイメージ良群は子どもイメージ悪群よりも小規模化尺度の得点が低いことが明らかとなった ($t(163) = 3.825$)。対策全体では、子ども嫌悪得点高群の方が子ども嫌悪得点低群よりも10%水準で得点が有意に低い傾向がみられた ($t(199) = 1.818$)。園関係者の誠意ある対応尺度では、子ども嫌悪得点高群の方が子ども嫌悪得点低群よりも5%水準で得点が有意に低かった ($t(200) = 2.511$)。地域貢献尺度では、子ども嫌悪得点高群の方が子ども嫌悪得点低群よりも1%水準で有意に得点が低いことが明らかとなった ($t(203) = 3.291$)。小規模化尺度では、子ども嫌悪得点高群の方が子ども嫌悪得点低群よりも0.1%水準で有意に得点が高いことが明らかとなった ($t(202) = 3.800$)。

(4) 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度と保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度

子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ、冷たい視線、親責任重視得点の高群・低群で保育園建設に対する態度形成における眼差しの厳しさの緩和要因となる対策に有意な差があるかを検討するため、対応のないt検定を行った。その結果、子育

てをしている親に対する眼差しの厳しさ、冷たい視線、親責任重視得点それぞれにおいて有意差がみられた。子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ得点高群は低群よりも0.1%水準で小規模化尺度の得点が高いことが明らかとなった ($t(180) = 3.501$)。冷たい視線得点高群は低群よりも1%水準で小規模化尺度の得点が有意に高かった ($t(198) = 2.615$)。親責任重視得点高群は低群よりも5%水準で対策全体の得点が有意に高く ($t(200) = 2.555$)、1%水準で園関係者の誠意ある対応尺度の得点が有意に高いことが明らかとなった ($t(201) = 2.902$)。

6) 重回帰分析 (Figure 3 参照)

(1) 保育園建設の賛否態度に関する重回帰分析

子どもイメージ尺度得点、子ども嫌悪尺度得点、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度得点、冷たい視線尺度得点、親責任重視尺度得点を独立変数、保育園建設の賛否態度を従属変数として、強制投入法による重回帰分析を行った。その結果、重決定係数は.19であり、0.1%水準で有意であった。標準偏回帰係数を見ると、子ども嫌悪尺度得点が10%水準で負の有意な値であり ($\beta = -.15$, $p < .10$)、また、冷たい視線尺度得点が0.1%水準で負の有

意な値であった ($\beta = -.29, p < .001$)。

(2) 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度に関する重回帰分析

子どもイメージ尺度得点, 子ども嫌悪尺度得点, 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度得点, 冷たい視線尺度得点, 親責任重視尺度得点を独立変数, 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度の下位尺度である小規模化尺度を従属変数として強制投入法による重回帰分析を行った。その結果, 重決定係数は.14であり, 0.1%水準で有意であった。標準偏回帰係数を見ると, 5%水準で子ども嫌悪尺度得点 ($\beta = .17, p < .05$) と, 冷たい視線尺度得点 ($\beta = .17, p < .05$) が有意な値であった。

IV. 考察

1. 年代に関する考察

子ども嫌悪尺度得点の30代の平均値が70代・80代に比べ有意に低かったことから, 年代が高い方が子どもに対して嫌悪感を抱いていることが考えられる。

また, 子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度得点の30代の平均値が他のどの年代より低かったことから, 年代が高いほうが子育てをしている親に対して厳しい眼差しを向けていることが考えられる。冷たい視線尺度得点においては30代の平均値が他のどの年代よりも低かった。このことから, 年代が高い方が子育てをしている親に対する眼差しの厳しさの中でも, 「親たちは子育て環境の整備を不当に強く要求している」や「親たちは男女平等の名のもとに過剰な要求をしている」等, 特に子育て

てをしている親に冷たい視線を向けている傾向があると考えられる。一方, 親責任重視尺度の得点は年代で有意差がなかったことから, 親の責任はどの年代でも重視していることが考えられる。

2. 子育て経験に関する考察

子育て中の人々の子ども嫌悪得点の平均値が, 孫がいる人に比べて低かったことから, 孫がいる人々の方が子育て中の人々より子どもに対し嫌悪感を抱いていることが考えられる。

子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度の得点が, 子どもがいない人は, 子育て経験のある人・孫がいる人に比べて低かったことから, 子育て経験のある人や孫がいる人の方が子育てをしている親に対して厳しい眼差しを向けていることが考えられる。子育てをしている親に対する眼差しの厳しさの中でも, 冷たい視線尺度得点において子どもがいない人と子育て中の人とは, 子育て経験がある人・孫がいる人に比べ得点が低かった。このことから, 子育てをしている親に対する厳しい眼差しの中でも, 子育て経験のある人や孫がいる人は, 子育てをしている親に対して, より冷たい視線を向けていることが考えられる。一方, 親責任重視尺度の得点は, 子どもがいない人の方が, 子育て中の人・子育て経験ありの人に比べて低かった。このことから, 子どもがいる人のほうが親の責任を重視していることが考えられる。

保育園建設の賛否態度の平均値が, 子育て中の人とは, 子育て経験がある人と孫がいる人に比べて高い傾向にあった。このことから, 子育て経験のある人・孫がいる人より, 子育て中の人の方が保育園建設に賛成

の傾向があることが考えられる。

しかしながら、年代を制御変数とする偏相関分析の結果、親責任重視尺度を除く子育て経験と各尺度得点に相関はみられなかった。このことから、年代の影響を除いても子育て経験と親責任重視尺度は関連があると考えられる。しかし、年代が高い方が子育て経験がある人や孫がいる人が多いため、子育て経験と子どもイメージ尺度、子ども嫌悪尺度、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ尺度、冷たい視線尺度においてみられた相関は疑似相関である可能性が考えられる。

3. 各尺度平均値の比較に関する考察

子どもイメージ悪群は子どもイメージ良群よりも保育園建設の賛否態度の得点が低いことから、子どもに対するイメージが悪いと保育園建設にも否定的であることが考えられる。また、子ども嫌悪高群は子ども嫌悪低群よりも保育園建設の賛否態度の得点が低いことから、子どもに対する嫌悪感を抱いていると保育園の建設にも否定的であることが考えられる。

子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ高群は子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ低群よりも保育園建設の賛否態度の得点が低かった。このことから、子育てをしている親に対して厳しい眼差しを向けていると、保育園の建設にも否定的であることが考えられる。子育てをしている親に対する眼差しの厳しさの中でも、冷たい視線高群は冷たい視線低群よりも保育園建設の賛否態度の得点が低かったが、親責任重視高群と親責任重視低群では有意な差はみられなかった。

また、保育園建設の賛否態度に関する重

回帰分析を行った結果、子ども嫌悪尺度と冷たい視線尺度の標準偏回帰係数が有意であったことから、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさの中でも、特に子どもへの嫌悪感と子育てをしている親に対する冷たい視線が保育園建設の賛否態度に影響を与えることが考えられる。

4. 保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度の考察

子どもイメージ悪群は子どもイメージ良群よりも小規模化尺度の得点が高かったことから、子どもイメージが悪い人の方が保育園を小規模化することが地域住民の賛同を得るために役に立つと考えているといえる。また、子ども嫌悪高群は子ども嫌悪低群よりも園関係者の誠意ある対応得点と地域貢献得点が低かったが、小規模化得点は高かった。このことから、子どもへの嫌悪感が低い人は子どもへの嫌悪感が高い人よりも、園関係者の誠意ある対応や地域貢献が地域住民の賛同を得るために役に立つと考えており、子どもへの嫌悪感が高い人は子どもへの嫌悪感が低い人よりも保育園を小規模化することが地域住民の賛同を得るために役に立つと考えているといえる。

子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ高群は子育てをしている親に対する眼差しの厳しさ低群よりも小規模化尺度の得点が高かったことから、子育てをしている親に対する眼差しが厳しい人の方が保育園を小規模化することが地域住民の賛同を得るために役に立つと考えているといえる。また、冷たい視線高群は冷たい視線低群よりも小規模化尺度の得点が高かったことから、子育てをしている親に対する眼差しの厳しさの中でも特に、子育てをしている親

に対して冷たい視線を向けている人の方が保育園を小規模化することが地域住民の賛同を得るために役に立つと考えているといえる。一方で、親責任重視高群は親責任重視低群よりも園関係者の誠意ある対応尺度の得点が高かったことから、親責任を重視する人の方が園関係者の誠意ある対応が地域住民の賛同を得るために役に立つと考えていることが考えられる。

また、保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因となる対策尺度に関する重回帰分析の結果、子ども嫌悪尺度と冷たい視線尺度の標準偏回帰係数が有意であったことから、子どもへの嫌悪感と子育てをしている親に対する冷たい視線が、保育園建設に対する地域住民の賛同を得るための対策に影響を与えていることが考えられる。

V. 総合考察

以上より、子どもに対するイメージが悪かったり、子どもに対して嫌悪感を強く抱いていたりすると、保育園の建設にも否定的であるといえる。子育てをしている親に対する眼差しの厳しさの中でも、特に子育てをしている親に対して冷たい視線を向けている人の方が保育園の建設にも否定的であることが考えられる。

年代ごとの比較からは、若い世代よりも年代の高い人の方が子どもに対する嫌悪感を抱いており、子育てをしている親に対する眼差しも厳しいことが考えられる。子育てをしている親に対する眼差しの厳しさの中でも、特に子育てをしている親に対する冷たい視線は、年代が高い人の方が強いことが考えられる。一方、親に対する責任は、年代に関係なくすべての年代で重視し

ていると考えられる。

保育園建設に対する態度変容に影響を及ぼす要因に関しては、子どもに対する嫌悪感や子育てをしている親に対する冷たい視線が、どの対策が地域住民の賛同を得るために役に立つかに影響を与えると考えられる。子どもイメージが悪い人や、子どもに対して嫌悪感を強く抱いている人は、子どもイメージが良い人や子どもに対する嫌悪感が低い人よりも、保育園を小規模化することが地域住民の賛同を得るために役に立つと考えているといえる。一方、子どもに対して嫌悪感が低い人は子どもに対する嫌悪感が強い人よりも、園関係者の誠意ある対応や地域貢献が地域住民の賛同を得るために役に立つと考えているといえる。

また、子育てをしている親に対して冷たい視線を向けている人は保育園を小規模化することが地域住民の賛同を得るために役に立つと考えている。一方、親責任を重視する人は園関係者の誠意ある対応が地域住民の賛同を得るために役に立つと考えているといえる。

保育園建設においては子どもの声がうるさいという騒音問題としてしばしば語られるが、橋本（2012）によれば、子どもの声は騒音ではなく「煩音」である。「煩音」とは、橋本の造語であるが、「音量がさほど大きくななくても、相手との人間関係や自分の心理状態によってうるさく感じる音」であり、嫌いな人やよく知らない人の音は小さくてもうるさく聞こえることが調査によって判明している。騒音問題の場合防音対策が重要となってくるが、煩音問題の場合、一番重要な対策は相手に対する誠意ある対応とそれを通じた関係の改善であると

橋本（2012）は語っている。

橋本（2015）は、保育園の建設における近隣住民との問題の解決には、当事者同士の感情的しこりや怒り、敵意を取り除くことが大切であり、防音対策と並行してお互いが接する機会を持つなどすることにより、信頼関係を作っていくことが必要であるとしている。NHKクローズアップ現代の「子どもって迷惑？～急増する保育園と住民のトラブル～」（2014）の中でも、建設予定当時は近隣住民の反対意見が多かったが、建設説明会に保育園の園長や保育士が参加し、近隣住民の要望を取り入れることで住民の合意を得て開園した保育園が紹介されていた。その保育園は、今では地元のお祭りに参加する等、地域の重要なメンバーになっている。また、朝日新聞デジタル「近所に保育園、迷惑ですか」（2016）の記事の中で、保育事業者の開園担当者は「その土地を一番知っている自治体との連携は、地域の合意形成を進める上で不可欠」と語っている。

このように、保育園の建設ありきではなく、事前に説明会を何度も開き、近隣住民の要望をかなえる努力を行政と保育園側が行い、誠意ある対応をすることが、近隣住民が保育園建設に賛同するために必要であると考えられる。さらに、開園後も地域住民と交流する機会を持つことが、近隣住民との関係を良好に保つために大切であると考えられる。「子どもだからうるさくてしょうがない」という気持ちではなく、近隣住民と保護者を含めた保育園関係者がお互いに思いやりの気持ちを持ち、地域で協力し合うことが現代社会に求められていることではないか。

本研究では、幅広い年代からの回答を集めたが、年代ごとの人数を人口比に合わせた年代構成にすることが今後の課題である。また、本研究では、研究協力者の性別が偏っていたが、統計的には性差がみられなかった。しかし、今後は男性からの回答も得て、結果を検討する必要がある。また、子育て環境を整えることは今後の社会にとって大切なことである。保育園の建設を含め、どのような働きかけをすることで、地域一丸となって子育てに取り組めるようできるのかを検討することが今後の課題である。

謝辞

本論文を作成するにあたり、指導教員の松崎くみ子教授から、丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。ここに感謝の意を表します。また、質問紙の配布・回答に協力してくださった皆様に感謝いたします。

参考文献

- 青木俊明・鈴木温 2005 社会資本整備における賛否態度の形成：公正の絆理論と態度変容モデルの統合 実験社会心理学研究, 45, 42-54.
- 青木俊明・西野仁・松井健一・鈴木温 2003 公共事業における情報提示と態度形成 土木学会論文集, 737, 223-235.
- 朝日新聞デジタル 2015 子どもの声は「煩音」かも八戸工業大大学院・橋本教授 MOM'S STAND 2015, 2.4 2016, 12.10閲覧
<http://www.asahi.com/msta/articles/ASH235T5PH23UEHF012.html>

- 朝日新聞デジタル 2016 近所に保育園、
迷惑ですか 高齢者ほど反対って本
当? 2016, 12. 5 2016, 12. 10閲覧
[http://www.asahi.com/articles/ASJD
102JXJCZUPQJ00X.html](http://www.asahi.com/articles/ASJD102JXJCZUPQJ00X.html)
- 船橋恵子 1998 変貌する家族と子育て
佐伯胖・黒崎勲他編 揺らぐ家族と地
域 岩波書店 pp. 28-49.
- 橋本典久 2012 苦情社会の騒音トラブ
ル学 解決のための処方箋、騒音対策か
ら煩音対応まで 新曜社 pp. 93-141
- 厚生労働省 平成25年国民生活基礎調査
【世帯票】2016, 4. 5閲覧[http://www.
mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/koku25
se.pdf](http://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/koku25se.pdf)
- 中谷奈津子・森田美佐 2014 育児をめぐ
る迷惑意識が母親の育児行動に及ぼす
影響：行為者側からみた公共の場にお
ける社会的迷惑 大阪府立大学紀要,
62, 1-15.
- NHK 2014 子どもって迷惑?～急増す
る保育園と住民のトラブル～ NHK
クローズアップ現代+ 2014, 10. 29放
送 2015, 2. 9閲覧
[http://www.nhk.or.jp/gendai/articles
/3573/1.html](http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3573/1.html)
- 大淵憲一 2004 日本人の公正観—公正は
個人と社会を結ぶ絆か— 現代図書
- 大淵憲一編2003公正の絆理論の検討：政
策，制度，組織評価における公正平成
11-14年度科学研究費補助金（基盤研
究(B)）研究成果報告書
- 高史明・雨宮有里 2013 在日コリアンに
対する古典的/現代的レイシズムにつ
いての基礎的検討 社会心理学研究,
28, 67-76.
- 田中理恵 2004 子ども観に関する研究
山口大学紀要, 54, 45-54.